

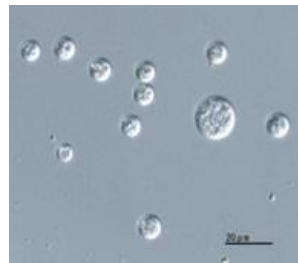
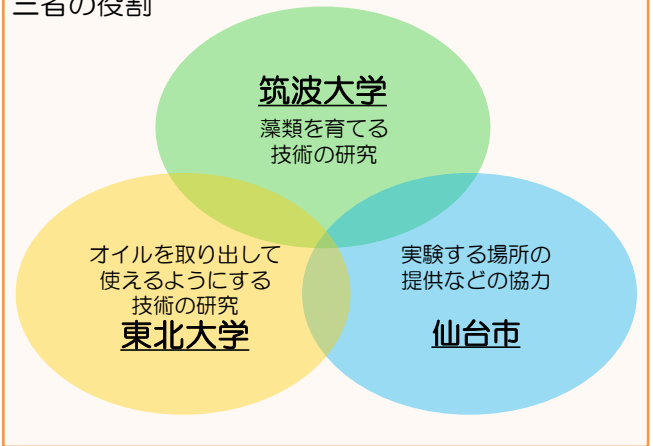
仙台市の藻類バイオマスプロジェクト

仙台市は、環境に優しく災害に強いまちづくりに向けて様々なエネルギー政策に取り組んでいます。その中の1つとして、筑波大学、東北大学とともに藻類バイオマスを活用した次世代エネルギーの研究開発に取り組んでいます。

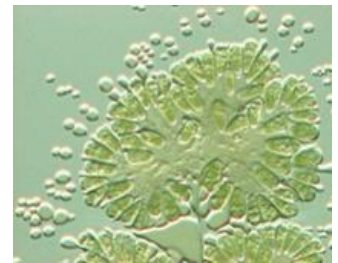
筑波大学は「藻類を育てる技術」、東北大学は「藻類からエネルギー（オイル）を取り出す技術」の研究を行い、仙台市は実験場所の提供などの支援を行っており三者が協力しながら、新しいエネルギーの実現に向けて研究開発を進めています。

仙台市で進めている研究開発では、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた下水処理場「南蒲生浄化センター」で実験を行っています。ここで、オーランチオキトリウムとボトリオコッカスという2つの藻類を育ててエネルギー（オイル）を作り、そのオイルを下水処理の中で使う仕組み「仙台モデル」の構築を目指しています。

三者の役割

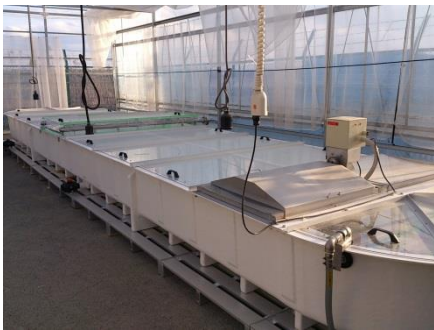


オーランチオキトリウム
Aurantiochytrium



ボトリオコッカス
Botryococcus braunii
(写真：筑波大学提供)

南蒲生浄化センターでの実験のようす



ボトリオコッカスを育てるための装置



オーランチオキトリウムを育てるための装置



実験室で藻類を育てる研究を行っています